

国語B 難易度やや下がる

公立高特別選抜 合格発表 来月2日

ど、英語でのコミュニケーションを意識させる出題が目立つた。題材は花畠や宇宙など様々。全体量は変わらないが、選択肢の英文が長く、解くのに時間がかかるのではないか。

判断力の必要な問題が増え、やや難しかった。地理では問題文に当てはまる場所を地図上で選ばせ、歴史では出来事を時代順に並べ替える問題などが出された。

理科は、過去数年と

A問題 基礎的な内容を確認する問題

府内の公立高校で20日に一葉の言い換えをヒントに答えた2020年度入試の特別選抜は、国数英では基礎的な内容を問うA問題と、標準的な内容のB問題が出題された。合格発表は3月2日。関西を中心に展開する進学塾「第一ゼミナル」に、出題傾向を聞いた。

普通科などの一般選抜は同11日に行われる。
国語B 昨年より、難易度はやや下がった。読解は指示語や言

広い単元の基礎力が試される。大問3は規則性を考える問題。大問4の平面図形は、相似や三平方の定理を活用して線分の長さや面積を求めさせた。記述問題は標準的だった。

データから推測し、科学的に思考する力や、普段の学習で身についた知識と提示されたデータを関連づけ、様々な現象の仕組みを正確に判断する力が問われた。

本文の内容を理解する力が問われた。数学は出題傾向、難易度ともにほぼ昨年並み。英語では、英作文で自分の意見とその理由を記述するよう求めた。

数学B 出題傾向、難易度とともにほぼ昨年並み。大問1、2は幅

英語B 留学生を含む3人の対話文、スピーチの原稿、メールなどを読み取る力や、思考力・

社会 基本的な用語を問う問題が中心ではあったが、資料

一般選抜 4万2000人挑む

公立高

府内の公立高校で11日、2020年度入試の一般選抜が行われ、約4万2000人が挑んだ。うち全日制は3万7014人の定員に対して4万1822人が出願し、平均倍率は1・13倍だった。

A問題 国語は、教室の美化を呼びかけるのに効果的な言葉を選び、その理由を書かせた。数学は、各単元の理解度を幅広く確認した。英語は、ラグビーのワールドカップをテーマとしたスピーチが出題された。

B問題 3教科とも構成は例年通り。国語は、資料を基に説得力のある文章を書く力が問われた。数学は、図形に難問があった。英語は、東京五輪・パラリンピックを競技場で見たいか、理由とともに書かせた。

府立大手前高校の全日制文理学科（定員360人）には510人が出願し、倍率は1・42倍。新型コロナウイルスの感染対策として、ほとんどの受験生がマスク姿で試験に臨んだ。学校も、休み時間に教室の窓を開けて換気に努めた。合格発表は19日。

問題は5教科で、うち国数英はA（基礎）、B（標準）、C（発展）の3種類あり、各校ごとに選択した。理社は共通問題。関西を中心に出題傾向を聞いた。

国語C 構成は昨年と同様。文章の要点について自分の言葉でまとめる問題は指定文字数が多く、難しく感じたのではないか。ひらがなの基となつた漢字を選ぶ、新しいタイプの問題もあった。作文は一般的なテーマで、比較的書きやすかった。

英語C 大問は昨年よりも一つ減った。読解では、東京五輪・パラリンピックに関連する時事問題がテーマに。英作文はことわざについて、論理的に意見を書くことが求められた。リスニングでは、聞き取った対話文を要約する問題が出た。

数学C 例年通りの問題構成だが、難化した分野が多く、制限時間内に解き終えるのは難しいだろ。平面図形では、あまり出題されていなかつた平形四辺形であることの証明が出来た。空間図形は位置関係の把握がポイントだ。

理科 難易度がやや上がった。基礎的な知識を問うものから、教科書の隅々まで目を通してい

社会 試す設問が目立つた。史実を起きた順番に並べ替える問題は、年代の近い出来事が出題され、難しかった。気候と農家の副業についての記述を求める問題や、歴史や地理、公民の分野を融合した問題もあつた。